

令和7年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【後期】

上尾市立太平中学校

上尾市立太平中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

社会に貢献できる人材の育成

校訓 ～凡事徹底～

学校課題研究主題

発達段階に応じた「知る」「深める」「内省する」9年間の道德教育
～きまりの意義を理解し、自らを律することのできる児童生徒の育成を目指して～

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査	R7 埼玉県学力・学習状況調査	R6 上尾市立小・中学校学力調査
国語、数学、理科ともに平均正答率は全国平均を下回る。 [国語] 根拠を立てて記述することに課題が見られる。 [数学] すべての分野において平均を下回っている。特に、基礎的な知識の正しい理解や技能に課題が見られる。 [理科] 全体的に正答率が低い。上位層が少なく、下位層が多い。	・学力レベルが県平均を下回っている教科、学年が多い。 ・国語・数学・英語ともに基礎的な知識の定着に課題が見られる。 ・上位層と比べて中間層が伸び悩んでいる傾向がある。 ・学習方略については、学年が上がるにつれて改善されていく傾向が見られる。 ・数学については、全体的に学力が低く、特に基本的な計算に課題がある。	[国語] 第1学年は正答率で全国平均を上回る。また「書くこと」の領域では、7.7ポイント上回っている。第2学年は正答率で全国平均を3.2ポイント下回っている。 [数学] 第1、第2学年ともに「数と式」の領域で全国平均を上回っている。また、両学年とも「関数」の領域に課題がみられる。 [英語] 第1、第2学年ともにすべての領域で全国平均を下回っている。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○ 読む、聞く、話す力の育成 ○ 計算力の育成 ○ 知識・技能に繋がる理解力	○ 課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ○ 自らの考えや思いを伝える力の育成	○ 粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ○ 自らの学習方法や態度がよりよいものになるように調整する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○ ドリル学習の充実 漢字練習、計算練習、小テスト、まなびポケット等で自動採点ドリル学習を実施する。 ○ ICT 端末の活用 画像・動画等を用いて、視覚的にもわかりやすい授業を行う。	○ 課題設定の工夫 身近な話題や興味のある課題を設定し、思考力・判断力を高める授業を行う。 ○ 表現力を高める授業 論述やレポートの作成、発表、話し合い活動、作品の制作や表現など多様な活動を取り入れる。	○ 興味関心を高める工夫 本時の課題や評価を明示することで授業への参加意識を高める。 ○ 振り返りの時間の設定 授業の終末に振り返りの時間を設定し、次の授業への意識付けを図る。

本校の特色ある取組

- 太平中レインボープランの実施
[挨拶] [高唱] [表明] [傾聴] [称揚] [整頓] [黙読]
- レインボー・アワーの実施
部活動中止期間中に、課題を持ち寄り学習する（10月より、原則毎週水曜日に実施する）。
- 朝読書時における読み聞かせの実施
- 太平中学校区における小中学校での連携した取組

家庭教育との連携

- 道德通信（道しるべ）の発行（毎月1回）
- 学校だより、学年だよりの発行
- 保健だより、情報通信、進路指導通信、ホームページの活用
- 太平ノート、テスト計画表の活用
- 三者面談の実施
- さくら連絡網での情報の発信

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①読む、聞く、話す力の育成 ②計算力の育成 ③知識・技能に繋がる理解力	④課題や問題に向き合い、解決していく力の定着 ⑤自らの考えや思いを伝える力の育成	⑥粘り強く学習に取り組む姿勢や態度 ⑦自らの学習方法や態度がよりよいものになるように調整する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、④、⑤	② スピーチや少人数での話し合い活動の実施。 ③ 集団で課題に取り組み、解決する活動の実施。 ④ 課題作文練習の実施。	
社会	①、⑤、⑥	①少人数での話し合い活動を積極的に取り入れる。 ⑤毎授業の振り返りを自分の言葉でまとめさせる。 ⑥定期的にワークや AI ドリルに取り組ませ、できるようになるまで問題演習を行う。	
数学	②、④、⑤、⑥	②⑥小テストや再テスト、教え合い活動を活用して確実に定着するまで取り組ませ、見守る。 ④⑤見通しをもって取り組ませることや少人数での話し合い活動を実施する。	
理科	③、④	③AI 型教材の利用等、ドリルによる反復学習を習慣化する。 ④仮説→結果→考察→まとめの過程から科学的な思考力をもとにしたレポートの書き方の定着を図る。	
外国語	③、④、⑤、⑦	③④⑤⑦Chromebook や振り返りを活用し、自分の知識・技能を広げたり課題を見つけたりする。	
音楽	④、⑤	④⑤考えや思いを言語化するためのヒントを提示し、少人数での意見交換の場を取り入れる。	
美術	③、④	③技能に関するアドバイスを制作中に個々に行い、自分のイメージを広げて主体的に制作させる。	

		④提出期間を毎時間明確にし、計画的に提出する力を身に着ける。	
技術	③	③自主学習に使えるコンテンツを作成する。そして、そのコンテンツを題材ごとに使用する時間を確保する。	
家庭	④、⑥	④生活の中から問題を見出し、習得した知識・技能を活用したり、仲間と対話したりしながら課題解決する場面を設定する。 ⑥学習や製作の過程を段階的に記録し、見通しをもって目標に向かえるようにする。	
保健体育	④、⑥	④思考ツールや ICT 機器を活用して、運動のポイントや課題を言語化し、仲間と協働的に課題解決を図る場を設定する。 ⑥ ICT 機器を活用して、主体的に取り組む姿を具体的に生徒に提示し、その実現を目指させる。	
特別の教科 道徳	①、⑤	①少人数での話し合い活動を積極的に取り入れる。 ⑤意見が言えない生徒に対して ICT 端末で視覚的補助を行う。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○太平中レインボープランの実施	○[挨拶] [高唱] [表明] [傾聴] [称揚] [整頓] [黙読]
○「レインボーアワー」の実施	○定期テスト前の部活動中止期間中に、自分の課題を持ち寄り、学習する場を提供する。分からない問題がある場合は、生徒からの質問に答えて学習補充を行う。(10月以降は、原則毎週水曜日に実施)
○朝読書における読み聞かせの実施	○各学期に1回、朝読書の時間を利用して、学校運営協議会員、保護者による読み聞かせを実施する。
○太平中学校区における小中学校での連携した取組	○9年間を見据えた規律ある態度の育成に向けて、年4回の小中学校での取組を共有する会議の実施や年1回の相互授業参観を実施する。

家庭教育との連携

○道徳通信の発行

○月に1度、道徳通信を発行する。各教員より道徳に関する話題や実体験等を踏まえた内容とし、発行日の朝読書の時間に活用する。

○学校だより、学年だよりの発行

○学校での生徒の活動の様子や、今後の予定を知らせる。

○保健だより、情報通信、進路指導通信、ホームページの活用

○定期的に家庭への啓発を図る。

○ホームページは週1回更新して、情報発信を積極的に行う。

○太平ノート・テスト計画表の利用

○太平ノートを利用し、家庭学習時間を記入する。定期テスト前にはテスト計画表をつくり、毎日の学習の進捗状況を担任と家庭とで共有する。

○三者面談の実施

○全校三者面談を年2回実施する。

○さくら連絡網

○学校からの文書や各部活動からの連絡等さくら連絡網で発信することにより確実に情報が家庭に届くようにする。